

# 人にやさしく、森林にもやさしい ボランティア活動

## もり 森林遊びサポートセンター（北海道）

地域の人たちと  
森林づくり&遊び

北海道札幌市周辺で生活する森林浴や登山などを楽しむ人たちが、森林や登山で出会った人たちと友だちになり、その十数人が集まって、地域の人たちと一緒に森林を守り、親しみ、遊ぶことを目的とした札幌森友会をつくったのは、平成三年その後、会員が増え、平成十五年にNPO法人化し、会の名称を森林遊びサポートセンターとしたときには、会員数は一七〇を超えていました。現在、会員数は二二六人、平均年齢は約六五歳（平成十八年末現在）。「最初の頃はアウトドアブームの影響もあって、一時は会員数が四〇〇人近くになるなどでした。今ではブームも会員数も落ち着きましたよ」

というのは、会の代表を務める小林文男さん。会員数が落ち着いたとは言うものの、毎月行われる活動には、会員でない一般参加者も集い、八〇人以上が参加することも。参加者に乗せるバスを追加でチャーターすることもしばしば、と言います。「ボランティアだからお金がないで



80人以上が参加した、支笏湖周辺台風被害復興の森づくり活動



上右：北海道有林真駒内保健保安林で、少年森林環境教育「子ども樹木博士」を認定

上左：札幌市内で、森のごみ拾いと遊歩道整備

下右：虻田郡真狩村フラワーロードで、体験農業と交流会

下左：札幌市都市環境林で、冬の硬雪上での間伐作業



しよ。だから、いつも少ない会費などをやりくりしながらバス会社に協力してもらって対応しています」と、小林さんは苦笑い。一回の活

動に数人しか集まらない森林ボランティア団体も多い昨今、高齢者から団塊世代、家族連れ、大学の自然研究会まで、老若男女問わず幅広い層

の人たちが毎回大勢集まり、一緒になつて緑化活動を行っています。無報酬にもかかわらず、参加者が集まってくる理由はどこにあるのでしょうか。小林さんは続けます。

「活動の多様さとか、環境保全に意識の高い人たちが集まっていて、活動にいい影響がでているところで、活動は風景林の整備や除伐などだけでなく、なだらかな尾根での登山や山野草の花などの自然観察、農家をお願いをして農業体験をしたりしています。毎回同じように「森林整備」と言っても人は集まりませんから。

あとは、北海道には環境に対する意識の高い人が多いと思うのです。活動の告知を街の掲示板やスーパーマーケットなどで行くと、次々に集まってきましたから。そういう人たちが一緒に活動すると、自然と影響され合つて、参加者の意識が高くなるみたいで、意識が高くなると、次の活動にも参加してくれる人は多いですから」

これまで十数年活動してきてよかったことは、「活動によって地域の人々の環境保全意識が高まったことや、発足時から持っていた地球温

暖化に対する意識がいまや世界的問題と認識されるようになり、私たちが当初からもっていた意識は間違っていないかった、と実感できたこと」と、話す小林さん。こうした活動が認められて、今年六月に北海道苫小牧市で行われた第五八回全国植樹祭で、森を守り緑に親しむ功労者を表彰する平成十八年度北海道社会貢献賞を受賞しました。今後も積極的な活動が期待される中で、小林さんは冷静にこれからの活動を見据えます。

「これからは、団塊世代が関わりやすいやさしい森林づくりや身体に障害のある人たちとの森林での交流、少年層への森林環境教育などにも目を向けて、活動をしていきたいと思っています。地域にとつて、これらの人たちとの交流は大切ですから」

人にやさしく、森林にもやさしい、そんな概念をもつ理想的な活動が、今、北海道で静かに育っています。

data  
〒061-2284  
北海道札幌市南区藤野  
4条2 5 32  
☎011-592-1030  
http://www.moriasobi.jp